

「全国盲ろう教育研究会 第23回研究協議会報告」

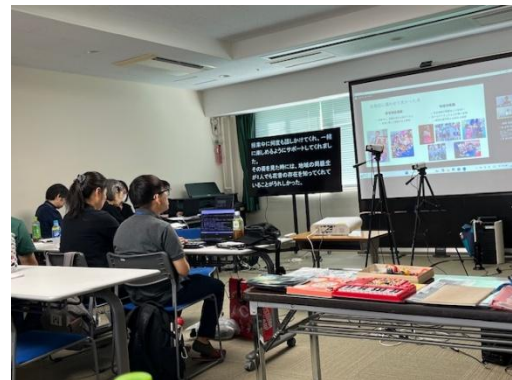
全国盲ろう教育研究会 第23回研究協議会

2025年9月27日(土)・28日(日)の2日間にわたり、第23回全国盲ろう教育研究会研究協議会を筑波大学附属視覚特別支援学校(東京都文京区)にて開催いたしました。今年度も対面とオンラインによるハイブリッド形式で行い、全国各地から教職員、支援者、医療関係者、行政関係者、研究者、保護者、当事者など多様な立場の方々にご参加いただきました。情報保障として手話通訳・要約筆記が提供され、オンライン参加者にも円滑に配信されるなど、多くの皆様のご協力により、充実した二日間となりました。



実践報告Ⅰ「盲ろう児童の豊かな表現力」「これまでの子育てを振り返って」

1日目は、中学1年生の弱視難聴のお子さんについて、前筑波大学附属視覚特別支援学校教諭・亀井笑氏による「盲ろう児童の豊かな表現力」、および保護者・杉浦真実子氏による「これまでの子育てを振り返って」のテーマでご報告いただきました。



亀井氏からは、盲ろう児 K さんの小学部6年間の振り返り、アセスメント、使用文字の検討、墨字の獲得、集団でのグループ編成という4つの段階を通して、学習とコミュニケーションの発達がどのように進んだかが丁寧に語られました。友達との関わりやふざけ合い、共通の話題を楽しむ姿、自分の意見をはっきり伝える姿など、Kさんの成長の過程を通して、豊かな表現力が育まれていく様子に多くの参加者が感銘を受けました。

続いて杉浦氏からは、乳幼児期から現在までの子育ての歩みが語られました。「見えなくても・聞こえなくてもたくさんの経験を!」「何でも一緒に楽しむ」「一つのやり方にこだわらず挑戦する」という姿勢を大切にしながら、家庭での試行錯誤とチャレンジを重ねてこられた体験は、多くの共感と感動を呼びました。幼児期には複数の施設に通い、各機関の先生方と連携しながら、子どもの特性を理解してもらうためのコミュニケーションを大切にされたこと、また、学齢期には同じ担任の先生と三年間にわたり取り組みを積み重ねたことが大きな成長につながったと語られました。最後には、現在ピアノ演奏に取り組む K さんの映像も紹介され、会場全体が温かな拍手に包まれました。

アンケートでは、「保護者の思いに心を打たれた」「教育的支援の積み重ねの大切さを実感した」「家庭と学校の協働の力と大切さを感じた」といった感想が多く寄せられました。

ポスター発表

続いて行われたポスター発表では、全国各地から教育実践、研究、社会的支援など多様なテーマが共有されました。どの発表も、盲ろう教育の実践の広がりや、支援の在り方を考える上で多くの示唆

に富むものでした。

【発表タイトル】

- ・R さんとのやりとりを通して～交渉を行っていく中で見えた成長～
- ・生徒の障がい理解とかかわりで大切にしているいくつかのこと
- ・山梨盲学校 盲ろう児教育実践資料群(デジタルデータ)の活用について
- ・盲ろう者向け電話リレーサービスのシステム開発における要件定義に関する調査
- ・日本調剤株式会社による「盲ろう」に関する認知調査報告

参加者からは、「どの発表も内容が濃く、多様な立場からの実践を知る貴重な機会だった」「盲ろう教育の社会的理解が広がっていることを実感した」といった意見が寄せられました。

懇親会

今年度は、6 年ぶりに懇親会を開催しました。研究会会場はもちろんのこと、今回は、徳島盲ろう者友の会のふうわ部の合宿会場ともオンラインでつなぎ、画面越しでの久しぶりの再会に、それぞれの近況や様子を紹介したり、参加者一人一人が自己紹介をしたりして、つながりを深めることができました。

実践報告Ⅱ「肢体不自由のある盲ろう児への指導実践」

2 日目には、福島県立平支援学校教諭・昆瑞希氏に実践報告をしていただきました。

報告では、肢体不自由と盲ろうの重複する児童 2 名の実践を通して、「A 児の言葉を大切にしたい係わり」と「K 君児の分かる・できるを探る学習」が紹介されました。A 児の「手の動き」を“ことば”として受け取り、気持ちを伝え合う関わり方や、K 児が自分の動きで変化を生み出す体験を重ねることで「わかった」「できた」という実感を育てていくプロセスが、動画とともに分かりやすく示されました。参加者からは、「丁寧な観察と関わりに感銘を受けた」「子どものことばを受け止めることの大切さを再認識した」などの感想が多く寄せられました。

分科会

午後の分科会では、今年度は新たな試みとしてオンラインからの参加も受け付け、ハイブリットで行いました。「乳幼児期に大切にしたこと」「子どもたちの気になる行動と対応」「コミュニケーション・意思決定」の 3 つのテーマで活発な意見交換が行われました。

「乳幼児期」では、家庭と学校・支援機関との連携や、体験を通じた発達支援の重要性が話し合われました。

「気になる行動と対応」では、性に関する教育や進路支援など、日々の実践に直結する課題を中心に議論が交わされました。

「コミュニケーション・意思決定」では、子どもの意思をどのようにくみ取り、日常生活の中で表出を支えるかについて、保護者・教職員・支援者、当事者がそれぞれの立場から意見を共有しました。

参加者からは、「多様な視点から学び合えた」「同じ課題に向き合う仲間とつながれた」との声が寄せられました。

盲ろう児者活動プログラム

保護者と一緒に参加した盲ろうの子どもたちは、ボランティアの方と一緒にエアトランポリンやバルーンで身体を動かしたり、光や音のおもちゃで遊んだり、マットの上でゴロゴロしてゆったりした時間を過ごしたりと、それぞれの好きな時間を過ごしました。

会場や分科会の様子、盲ろう児者活動プログラムの風景などを収めた写真も併せて掲載しています。当日の雰囲気や参加者の交流の様子をご覧ください。



本研究協議会の開催にあたり、実践報告、ポスター発表等をしていただいた皆様、運営や情報保障にご協力くださった関係機関、そして全国からご参加くださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。今後も、盲ろう教育に関わる多様な立場の方々が学び合い、つながり合う場として、本研究会をさらに発展させてまいりたいと考えております。
